

中学校における古典指導の研究  
—地域の伝統・文化を活かした教材開発の試み—

A8G31004 大越歩

指導教員 鳴島甫

## 1 問題と目的

平成 20 年 3 月に中央教育審議会答申を受け、学習指導要領の改訂が行われ、「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」が新設された。同答申は、「改善の基本方針」として、「我が国の言語文化を享受し継承・発展させる態度を育てること」を示している。また、このような古典教育の充実が言われている背景として、「自らの国や郷土の伝統・文化について理解を深め、尊重する態度を身に付けてこそ、グローバル化社会の中で、自分とは異なる文化や歴史に敬意を払い、これらに立脚する人々と共存することができる。また、(中略) 自己と対話しながら自分を深めていく上でも極めて重要である。」ことなどを挙げている。その上で、水戸部修治氏は「地域に伝わる伝説や各地域にゆかりのある歌人や俳人、地域の景色を詠んだ歌や句などを教材として開発することなどが有効である<sup>\*1</sup>。」と述べており、地域の伝統・文化を活かした教材の開発を示唆している。

生徒の実態としては、平成 17 年度に実施された教育課程実施状況調査の質問紙調査において、古典嫌いの高校生は 70%を超えており、平成 20 年度全国学力・学習状況調査報告書においては中学生の 76%が地域文化へ関心を持っていないことが報告されている。

小池保利氏は「中学生時代に郷土が産んだ優れた文人の文学作品に触れ、親しむことは、郷土の歴史と文化を見直すことに通じる。また、郷土への理解を深め、情操を豊かにし、郷土愛を培う上で極めて意義深いものであると思う<sup>\*2</sup>。」と述べており、古典指導における「地域教材」は古典に親しむ態度を養い、さらには、郷土を見直すという内容的な観点からも有益なものと判断できる。また、近年では米田猛氏が古典に親しむ上での地域教材の有効性を提言している<sup>\*3</sup>。日本の伝統・文化を活かした実践は各地で様々な取り組みが行われており、東京都では「日本の伝統・文化理解教育推進事業」が平成 18 年度より行われている。しかし、「地域性」を活かした実践は充分に行われておらず、地域の伝統・文化を活かした古典教材を検討する必要があると考える。

以上のことを踏まえ、本研究では地域の伝統・文化の教材化に伴う留意点や諸問題を整理し、東京都の隅田川にまつわる古典作品の教材化を通して考察を試みたい。

## 2 方法

### 【研究1】地域の伝統・文化を活かした近年の実践事例の検討

(1) 実践事例を分類する。

- ア. 地域の言葉（方言）を活かした授業
- イ. 地域の言語文化（民話・物語・伝説・詩歌・民謡・紀行等）を学習材とした授業
- ウ. その他（地域の風俗・習慣・祭礼・芸能等）※4

(2) 東京都が行う「日本の伝統・文化理解教育推進事業」に関して検討する。

### 【研究2】地域の伝統・文化を教材化する観点、留意点の整理

地域の伝統・文化を活かす教材の開発に関する先行研究を検討する。

### 【研究3】東京都、隅田川に関する古典作品の教材化

- (1) 東京都の伝統的な言語文化について調べる。
- (2) 隅田川に関する古典作品を調査する。
- (3) 隅田川の伝統・文化を活かした教材を開発する。

## 3 今後の研究

引き続き教材開発と検討を行う。整理した留意点をもとに、本文の提示のしかた、注の示し方の配慮をどのようにするかなど、先行研究をもとに教材に関する資料の検討を進めている。

また、10月末に実践校において、「おくのほそ道」（第三学年）と地域の伝統・文化を絡めた授業実践を行う予定である。決められた単元の中でどのように地域性を高めていくかが課題となる。

## 4 参考文献

- 1) 水戸部修治「国語科における伝統・文化に関する教育の充実」（『初等教育資料』1月号 No.843, 2009年, pp4-5）
- 2) 小池保利「郷土に密着した万葉教材の研究総論」（『解釈学』第9号,1993年,p1）
- 3) 米田猛・松田明大「中学校国語科古典指導における「地域教材」の開発試論—教材「越中万葉」の開発と実践—」（富山大学人間発達科学部紀要,第2号,2008年,pp1-12）
- 4) 石塚秀雄「『地域の文化・伝統を活かす』ということ」（『月刊国語教育研究』1月号 NO.429,2008年, pp2-3）